

今月の臨床

若年女性診療に必要な基礎知識

女性のライフステージは小児期-思春期-性成熟期-更年期-老年期と移行していく。この間の変化は、主としてエストロゲンをはじめとする視床下部-下垂体-卵巣系のホルモンによって制御されている。なかでも思春期は小児期から性成熟期への移行期で、心身ともに大きく変化する。エストロゲン分泌量の増加により二次性徴が発現し、心身ともに大きく変化する。この変化には個人差があり、例えば初経遅延の原因が生理的なものなのか器質的なものなのかを鑑別するのが難しいことをしばしば経験する。

この世代の最近のトピックとしては、HPV ワクチン、梅毒などの性感染症や摂食障害などのメンタルヘルスに関連する疾患の増加が挙げられる。今回は、思春期が発来して生殖機能を獲得し成熟する時期である adolescent and young adult (AYA) 世代を若年女性と定義した。そして、この世代のヘルスケアにおける近年のトピック、若手産婦人科医に理解してほしい基礎知識などをセクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ (SRHR) の観点も含めて解説していただくべく、エキスパートの先生方に依頼した。

総論では、生殖機能を制御する内分泌機構および SRHR、プレコンセプションケア、『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』に基づく包括的性教育を概説し、AYA 世代女性の健康課題についても整理した。

各論では、産婦人科領域で AYA 世代に多くみられる月経異常および性分化疾患、近年増加が著しい梅毒などの性感染症、若年妊娠や避妊などの問題を含む妊娠関連、HPV ワクチンや妊孕性温存などの腫瘍関連について、病態・診断・治療のポイントを解説した。さらに、上記に分類できない AYA 世代のトピックとして、思春期の女性ホルモン療法、女性アスリート、摂食障害、性別違和を取り上げた。

産婦人科における若年女性の診療では、診断時の問題点の解決のみならず、その後のライフステージの健康も視野に入れた包括的なヘルスケアが必要である。

榎原 秀也（横浜市立大学附属市民総合医療センター婦人科）